

## 再評価結果（平成25年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

<b>事業名</b> 一般国道108号 <small>はなぶちやま</small> 花淵山バイパス	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 東北地方整備局	<b>延長</b> 6.4 km
<b>起終点</b> 自：宮城県大崎市鳴子温泉古戸前 <small>おおさき なるこおんせんふるとまえ</small> 至：宮城県大崎市鳴子温泉鬼首柏木原 <small>おおさき なるこおんせんおにこうべかしわざはら</small>			
<b>事業概要</b> 一般国道108号は、宮城県石巻市を起点として秋田県由利本荘市に至る主要幹線道路であり、宮城・秋田両県を最短で繋ぐネットワークとして、地域間の交流・連携の活性化に大きな役割を果たしている重要路線である。 花淵山バイパスは、現道隘路の解消や災害時の迂回路の確保等を目的としたバイパス事業である。			
H20年度事業化 <small>（直轄権限代行による事業化）</small>	都市計画未実施	H元年度用地着手	H3年度工事着手
全体事業費 120億円		事業進捗率 52%	供用済延長 - km
計画交通量 3,600台/日			
<b>費用対効果分析結果</b> B/C (事業全体) 2.2 (残事業) 4.4	<b>総費用</b> (残事業)/ (事業全体) 59億円/ 117億円 事業費 : 54億円/ 113億円 維持管理費 : 4.4億円/ 4.4億円	<b>総便益</b> (残事業)/ (事業全体) 260億円/ 260億円 走行時間短縮便益 : 227億円/ 227億円 走行経費減少便益 : 32億円/ 32億円 交通事故減少便益 : 1.7億円/ 1.7億円	<b>基準年</b> 平成24年
<b>感度分析の結果</b> 【全体事業】 交通量変動 : B/C=2.1~2.4 (交通量 ±10%) 事業費変動 : B/C=2.0~2.4 (事業費 ±10%) 事業期間変動 : B/C=2.0~2.4 (事業期間 ±1年) 【残事業】 B/C=4.2~4.6 (交通量 ±10%) B/C=3.7~5.4 (事業費 ±10%) B/C=4.1~4.6 (事業期間 ±1年)			
<b>事業の効果等</b> ・国土・地域ネットワークの構築 （現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する） ・災害への備え （近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1~2箇所の道路寸断で孤立化する集落を解消する） <div style="text-align: right;">他10項目に該当</div>			
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> ○宮城県知事の意見 ・事業の継続実施に意義はありません。 なお、当該道路は県境をつなぐ防災道路ネットワークとして大変重要な役割を果たすことから、より一層の整備促進を求めますとともに、震災に伴う本県の災害関連費用負担が大幅に増大していることから、一層のコスト縮減を図るなど、事業促進に係る費用負担軽減について特段の配慮をお願いします。  ○以下の団体等から、花淵山バイパスの整備促進について要望あり ・宮城県知事 ・大崎市長 ・国道108号花淵山バイパス整備促進期成同盟会			
<b>事業評価監視委員会の意見</b> 対応方針（原案）どおり「継続」が妥当である。			
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> ・この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。			
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> ・事業進捗率52%（うち用地進捗率100%）			
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> ・事業の進捗に係る問題はない。			
<b>施設の構造や工法の変更等</b> ・再生資材（再生砕石、再生アスファルト合材等）の活用により、コスト縮減を図る。			
<b>対応方針</b> 事業継続			
<b>対応方針決定の理由</b> 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。			

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。